

## 資料編

### (1) 名簿

#### ①地域福祉計画策定委員会名簿

氏名	所属組織等
◎ 平野隆之	日本福祉大学教授
神谷環光	高浜市社会福祉協議会評議員
杉村和子	主任児童委員
濱田光男	社会福祉法人 高浜安立荘指導員
磯貝毅	医療法人碧会理事
磯部茂久	社会福祉法人 知多学園よしいけ保育園園長
古橋知美	168人(ひろば)委員会 A1グループリーダー(大人)
河合啓太	168人(ひろば)委員会 A1グループリーダー(子ども)
榊原和恵	168人(ひろば)委員会 A2グループ
○角谷式男	168人(ひろば)委員会 A3グループ
神谷静江	168人(ひろば)委員会 Bグループ
藤浦和子	168人(ひろば)委員会 Bグループ
山本鍾児	168人(ひろば)委員会 Cグループリーダー
杉浦由美	市民公募
神谷ことゑ	市民公募

◎会長、○副会長

## ②168人（ひろば）委員会グループリーダー名簿

【平成13年度】

グループ	氏名	プロフィール
第1グループ （大人）	古橋知美	人形劇団おにっこのメンバー
第1グループ （子ども）	佐藤和樹	ちょっぴり控えめな中学2年生
第2グループ	廣田恵子	3月出産予定の若い主婦 委員会には子連れで参加
第3グループ	榊原和恵	ボランティアの先駆者
第4グループ	山本鍾児	ちょっと辛口で高浜をこよなく愛するオジサン
第5グループ	角谷式男	現場を踏まえた理論派リーダー

【平成14年度】

グループ	氏名	プロフィール
A1グループ （大人）	古橋知美	人形劇団おにっこのメンバー
A1グループ （子ども）	河合啓太	福祉科に学ぶエンターテイナー
A2グループ	杉浦潤一郎	次世代の地域福祉を担う若き畳屋の旦那
A3グループ	小俣久江	近所づきあいを大切にするオバチャマ
Bグループ	濱田光男	福祉に燃える施設職員
Cグループ	山本鍾児	現場を踏まえた理論33派リーダー

### ③計画活動サポーター名簿

【平成13年度】

グループ	氏名	プロフィール
第1グループ	平野隆之	日本福祉大学教授
第2グループ	荒川孝之	地域福祉の実践・研究者
第3グループ	大井智香子	ボランティア活動アドバイザー
第4グループ	沢田和子	上野市社協に詳しい地域福祉の実践者
第5グループ	伊藤美樹	地域福祉に興味津々の大学院生

【平成14年度】

グループ	氏名	プロフィール
Bグループ	荒川孝之	地域福祉の実践・研究者
	沢田和子	上野市社協に詳しい地域福祉の実践者
Cグループ	伊藤美樹	地域福祉に興味津々の大学院生
	丹下多栄美	熱き思いを持って福祉に飛び込んだ元学校の先生

#### ④地域福祉計画策定プロジェクトチーム名簿

- 指導者 平野隆之（日本福祉大学教授）
- 助言者 岸本和行（教育長）、岸上善徳（福祉部長）

氏名	所属	備考
◎ 鈴木信之	福祉部福祉課	事務局
尾本充幸	福祉部福祉課	
長谷川宜史	福祉部福祉課	事務局
竹内正夫	福祉部福祉課	事務局
中谷展明	福祉部長寿課	
濱田広子	福祉部長寿課	
篠田彰	福祉部長寿課	
内田徹	福祉部長寿課	
福井和典	福祉部保健課	
榊原八重子	福祉部保健課	
元木重幸	幼育センターこども課	
江坂和子	幼育センターこども課	
○ 森野隆	高浜市社会福祉協議会	事務局
見澤勝弘	高浜市社会福祉協議会	事務局
神谷義直	高浜市社会福祉協議会	
磯村正義	総務部まちづくり課	オブザーバー

◎委員長、○副委員長

## (2) 計画策定までの経過（プロセス）

年度	年	月	ひろば委員会	策定委員会	プロジェクト	各種イベント等
12	13	2			第1回	<b>7日：全国社会福祉協議会よりモデル事業として指定</b>
		3			第2回	
13		4			第3, 4, 5回	
		5			第6, 7, 8回	
		6	メンバー募集（1～22日）		第9, 10, 11, 12, 13回 20日三鷹市視察	<b>17日：地域福祉フォーラム</b> 講演会「わかるふくしの発 想」 講師 木原孝久氏 参加者 220名
		7	<b>14日：第1回ひろば委員会</b> 講演会「ひろば委員会に期待すること」 講師 平野隆之氏 参加者 118名 ※グループ分け（5つ） 『ひろばノート』配布 25日：グループリーダー会① 活動ルール、方針について <b>28日：グループ活動開始①</b> 『ひろばにゅーす』創刊		第14, 15, 16, 17回	
		8	11日：グループ活動② 25日：グループ活動③	モデル策定委員公募（1～15日） 30日：第1回モデル策定委員会 委員紹介、今後の取り組み	第18, 19, 20, 21, 22回	
		9	8日：グループ活動④ <b>22日：発表祭（前期）</b> 参加者 130名		第23, 24, 25, 26回	<b>22日：地域福祉フォーラム</b> 講演会「成年後見制度の利用について」 講師 弁護士 参加者 130名
		10	13日：グループ活動⑤ 27日：グループ活動⑥		第27, 28, 29, 30回	
		11	10日：グループ活動⑦ 24日：グループ活動⑧	29日：第2回モデル策定委員会 中間素案、パブリックコメント実施	第31, 32, 33, 34, 35回	
		12	8日：グループ活動⑨ 10日：グループリーダー会② 勉強会、発表祭（後期）について 22日：グループ活動⑩	パブリックコメント実施（25～1/15） 件数 52件（提出者 21名）	第36, 37, 38回	
	14	1	12日：グループ活動⑪ 26日：グループ活動⑫	<b>12日：中間素案の勉強会</b> ※『手作り資料』配布 30日：第3回モデル策定委員会 パブリックコメントの内容、最終素案	第39, 40, 41回	<b>20日：地域福祉フォーラム</b> 講演会「まちづくりと子ども の参加と権利について」 講師 喜多明人氏
		2	9日：グループ活動⑬ <b>23日：発表祭（後期）</b>	23日：第4回モデル策定委員会 最終案決定	第42, 43, 44回	<b>23日：地域福祉フォーラム</b> 講演会「精神病は怖いもの か」 講師 芳賀幸彦氏
		3	メンバー追加募集（15～31日）			<b>モデル計画の提出</b>

年度	年	月	ひろば委員会・ひろば運営委員会	策定委員会	プロジェクト	各種イベント等
14	14	4	<b>13日：第1回ひろば委員会</b> 新グループの編成 「ひろば運営委員会」設置 決定 27日：各グループ活動開始	策定委員公募（15～30日）	第49, 50, 51, 52回	
		5	9日：第1回計画策定委員・ひろば運営委員会 合同委員会 委員紹介 世話人（3人）の選出 役割の確認 モデル計画の7つの課題について	9日：第1回計画策定委員・ひろば運営委員会 合同委員会 委員紹介及び委嘱 委員長・副委員長の選出 今後の取り組み	第53, 54, 55回	
		6			第56, 57回	
		7	25日：第2回ひろば運営委員会 モデル計画の7つの課題の 検討報告 役割の再確認 <b>実験事業開始</b> <b>(A1グループ：アンケート)</b>		第58, 59回	
		8			第60, 61, 62, 63回	
		9	<b>23日：実験事業開始</b> <b>(Bグループ：「みんなの家」)</b>	25日：第2回策定委員会 中間素案、パブリックコメント実施	第64回	
		10	25日：第3回ひろば運営委員会 地区説明会について 発表祭について 地域福祉活動計画について		第65, 66回	
		11	5日：第4回ひろば運営委員会 地区説明会について 発表祭について 地域福祉活動計画について <b>7日：実験事業開始</b> <b>(A2グループ：「ちょっこらや」)</b> <b>地区説明会開催</b> (17, 19, 21, 22, 25, 26, 12/21日) 6ヶ所 7日間 参加者 330名	パブリックコメント実施（1～30日） 件数 61件（提出者 31名）	第67, 68回	
		12				
	15	1		28日：第3回策定委員会 パブリックコメントの内容	第69回	
		2	14日：第4回ひろば運営委員会 発表祭について H15の活動内容について 地域福祉活動計画（素案）について		第70回	
		3	<b>22日：発表祭</b> 活動報告 市民との懇親会 メンバー追加募集（15～31日）	22日：第4回策定委員会 最終案決定 市長への報告		

### (3) 168人(ひろば)委員会実験事業の取り組み

グループ名	実験事業名	内 容
A1グループ	アンケート調査活動	市内の小・中学生、高校生とその親などを対象としてアンケート調査を行った結果、「おとなは、目に見える子どもの姿は分かっているが、心の中までは理解していないようだ。」ということが分かった。また、子どもの安心(ほっと)できる場所が分かった。今後も「子どもにもできることは何か。」を考えて取り組んでいきたい。
A2グループ	地域型ボランティアセンター「ちょっこらや」の実践	現在のボランティアセンターの機能に疑問を持ったことから、より地域に密着したボランティア活動を目指して「地域住民による、地域住民のための」ボランティアセンターを、地域限定、活動日限定で実施。その結果、高齢者世帯では、ちょっとしたことに困っていることが分かり、ニーズはかなりあると考えられる。どうPRするかが、キーポイントであると感じている。
A3グループ	地域情報ひろば「情報箱」の設置	住民が安心して暮らすために、楽しく、簡単に探せる場所があると便利だと考え、様々な情報(特に、同じ悩みをもち、気軽に相談できる仲間がどこにいるのか。また、気軽に立ち寄り、話のできる地域の居場所がどこにあるのか。)をいきいき広場に設置していく。
Bグループ	「みんなの家」の実践	例えば、養護学校に通う生徒にとっての夏休みの実践などの長期休暇中は、家に閉じこもりがちな生活となり、親も疲れ果てると聞いている。このため、障害者とその家族が公民館に集い、みんなで昼食会の準備をし、みんなで楽しく語り合う場を設け、障害者とその親の居場所づくりを始めている。
Cグループ	町内会の地域福祉活動実践への提言	現在の近所づきあいは、物が豊かになって、近福祉活動実践へ所どうしが助け合うということが少なくなり、挨の提言捗程度のつきあいになっている。こうしたことから、一人暮らし高齢者など社会的に弱い立場の人との意思疎通が不十分な状況にあることから、町内会による市広報配付時に、単にポストに入れるだけでなく、手渡しによって一声掛けながら配付できないかというようなことを町内会に提言し、実践していただいた町内会もある。